

年度 2008 学期 後期	曜日・校時	金曜日・4校時	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	総合英語 II (Comprehensive English II)			
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室		
対象学生(クラス等)	Td	科目分類 外国語科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	担当教員: 橋本 高明 /Eメールアドレス: /研究室: 非常勤講師控室 /TEL: /オフィスアワー: 金曜日昼休み			
担当教員(オムニバス科目等)				
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500文字)</p> <p>授業のねらい: この授業では以下に示す技能の習得をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)英語文中の構成素の文法的役割とそれらのあいだの修飾関係を正確に理解する。 2)英語文構成素の文法的役割や修飾関係を正確に表現するメタ言語訳を作る。 3)メタ言語訳中の構成素の文法的役割や修飾関係を正確に表現する英語文を作る。 <p>授業方法: 各週の授業では、社会問題や自然科学に関わる平易な記事を読み、音読により発音練習し、記事の英文の構造を正確に理解して日本語を用いたメタ言語訳を行う。履修者は各週の記事・練習問題をかみならず予習し、発表準備をして授業に臨むこと。</p> <p>授業到達目標: 上記「授業のねらい」の技能(1)~(3)について、担当教員の評価で 60%以上適切と評定される水準の言語技能を運用できるようになる。</p>				
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 授業内容・授業方法の説明、penmanship プリテスト、文法プリテスト</p> <p>第2回 Unit 1: Apple Polisher</p> <p>第3回 Unit 3: “Boomerang” Children</p> <p>第4回 Unit 4: Television and Violence</p> <p>第5回 Unit 7: Earth Day</p> <p>第6回 Unit 8: Yard Sale</p> <p>第7回 Unit 9: Xerography</p> <p>第8回 復習1、中間試験</p> <p>第9回 Unit 10: Jobs for College Students</p> <p>第10回 Unit 12: Behind the Music Awards</p> <p>第11回 Unit 14: Credit Cards</p> <p>第12回 Unit 17: Dangers of Space Junk</p> <p>第13回 Unit 18: Keeping up with the Joneses</p> <p>第14回 Unit 19: Computer Viruses、復習2</p> <p>第15回 復習3、期末試験</p>				
キーワード				
教科書・教材・参考書	<p>教科書: Nakahata, Shigeru and Joseph Benson. <i>VOA & Grammar</i>. Tokyo: Nan'un-do, 1991.</p> <p>参考書: 小野経男『チャート式新英文法』東京:数教出版, 1990.</p>			
成績評価の方法・基準等	この授業を履修し合格点を取得するためには、履修者は、上記「授業のねらい」に示した技能(1)~(3)について、担当教員の評価で 60%以上適切と評定される水準の言語技能を習得しなくてはならない。技能(1)および(2)についてはおもに授業発表を通して評価を行う。技能(1)および(3)については 2回の筆記試験を通して評価を行う。授業発表および提出物を最終評価の 20%、2回の試験の評価を最終評価の 80%とする。			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ /学習・教育目標				
備考(準備学習等)	宿題、その他の提出物を遅れて提出することは認めない。授業にはかみならず辞書、教科書、筆記具、配布済みのハンドアウトを持参すること。やむを得ない事情で欠席した場合、公欠扱いを希望する者は、期末試験時の欠席で追試験の申し込みを行う場合と同様に、理由を明記した欠席届とやむを得ない理由を立証する証明書類(あるいはその複写)を提出すること。期末試験を欠席した場合に追試験が認められるようなやむを得ない理由でないかぎり、欠席は公欠扱いにはならない。公欠扱いにならない理由で中間試験を欠席した場合には中間試験を 0 点扱いとする。			